

社団法人上田高等学校同窓会関東支部会報

11月30日 (金曜日) 1979 (昭和54年) 季刊

第22号 発行所 上田高等学校同窓会関東支部事務局 発行人 矢島五郎 編集委員長 清水幾郎 編集長 村田寛 埼玉県川口市並木2-11-20 矢島鑄工(株)内 電話 0482-53-2662(代表) 題字は故稲垣征夫氏筆

原稿をお寄せ下さい。テーマは自由です。同窓会のご近況報告、呼びかけなんでも結構です。文字数一段15字・100行(1500字)以内。締切日 昭和五十五年三月三十一日。送先 〒282 川口市並木二の十一の二十 矢島鑄工(株)内 上田高等学校同窓会 関東支部事務局 宛

飲んだ、歌った、踊った

第18回関東支部大会開く

三百余名が一堂に

第十八回目を迎えた上田高等学校同窓会関東支部大会が、さる六月二十八日、東京虎の門の東京農林年金会館で開かれた。当日はあいにくの曇天にもかかわらず、定刻前には会員が続々とつめかけ、一時は受け付けが間に合わないほどの盛況ぶり。懇親パーティーの席上では景気後退、不況の世相も、われ関せずの「上田健児」が、数多く見受けられた。

校歌斉唱で

クライマックス

本紙の充実と同期会の振興
来年度事業計画
関東支部一年の歩みの総まとめとなる議事は、会務、会計、監査の順で、各担当幹事より報告があり、いずれも満場一致で承認された。このなかで注目されたのは、来年度の事業計画であったが、本支部で行われる八十周年記念事業の余波を受けてか、こちらは比較

これは女学校の同窓会?

眼目の懇親パーティーは、議事終了後、会場を大広間に移して七

母校の創立八十周年記念事業

関東支部も協力

資金募集などに
支部長 (31) 矢島 五郎

初冬の陽気しもやかと暗騒ぎの街にも年の瀬迫るの感を覚える。さて、本会員の皆様方のお手許にも、既に母校同窓会本部より郵送された、母校創立八十周年記念事業に関する、事業資金募集の趣意書が届けられ御覧なされたか。その後、関東支部員の皆様方には、益々御健勝に社会の各分野に御活躍のことと拝察申し上げております。日頃本会については深い御理解と、御協力御支援を賜りまして、今回この記を草すにあたり、本会の各期代表幹事並びに役員幹事諸氏と共に、有難く厚く御

懐しき顔、顔、顔

第18回関東支部大会



クライマックスのパーティーぶり。中央を踊り狂うのは、矢島支部長、新津母校校長、小林郷司副支部長の面々……。イラスト構成は中村三(32)氏

懐しき顔、顔、顔

上田から

会報(うえだ)発行、月一回の定例幹事会、各期同窓会……。おまそ全国に例をみない活発な活動を展開している関東支部の、年一回の大会とあって、第40期生を中心とする大会役員関係者の熱意は、ここ数年にみられないほど高揚していた。在京のメンバーばかりでなく、遠く上田からわざわざ大きな大会のためにかけつけた四〇期生も約十名。在京メンバーとあわせ、二十余名が、会計、会場設営、受付、司会の裏方をとめた。

来賓は

多士済々

本大会を盛り上げたのは、前記大会役員のみならず、懐しい上田からかけつけた、数多くの来賓の方々も参加が、はじめて、あれだけの盛大かつ心暖まる懇親の夕べとはなったものである。日ごろ、スモッグと騒音のな

帝人油化株式会社

東京都千代田区内幸町2-1-1

常務取締役 柳澤寛一 (39回)

03-506-4750

祝 第二十二号発行

青々会東京支部(39期同窓会)

有志
勝男三操
唯芳
藤塚沢田
長大波柳

連絡先 東京都港区西新橋2-34-8 (帝国ビル3F) 電話 (03) 433-1749 (長藤)

大会の想い、大会の想い

<第18回大会の回顧>

大会委員長 小林 郷司(40)

昨年の幹事会で大会委員長に指名された時、之は大変な役を仰せつかったと困惑した。この頃は、さしや盛会を誇った関東支部の大会も、この頃、凋落傾向が顕著で居り、今回は一五〇名前後ではないかと予想されたからである。

無論、「山高きが必ずしも貴とからず」ではないが、役員末席を汚す一人としては、矢張り参加者の漸減は心淋しいものである。その原因については従来も何回も検討されたが確としたものは掴めなかった。併し下りて見ると、大会委員長が毎年交代して動めるという事は、それなりの理由がある。それは、よし今年は五〇〇名を目標にしてと角大勢の同窓生に集まって戴こうと私は決心した。

最初考えたことは、矢張り部長の御助言もあり、今年には新卒者を無料招待しようと、春未だ浅い信濃路の母校へ柳沢幹事長と新津校長先生をお訪ねして懇請した。御賛成を戴いた許りか、逆に激励を受ける羽目となった。味をしめた勢いで、本部の定時総会に支部長さん方のお供を呼ばし、角本部と支部の交流を促し、干渉は、先ず本部の理事幹事は、関東支部の大会に参加して、肌で感じて下さい」と訴えた結果、又々、大挙御上京の成約を得た。

この様にして外灘は追々と埋まったものの、肝心の関東支部は増やす事は出来ず、廻り廻りして苦肉の策は、若干取扱いで混乱を招いた「前売券」の採用であったが、例年行なう大会直前の幹事会を一ヶ月近く繰上げ開催したと相俟って、それなりの効果はあったと思う。

さて、史上最高の参加者(当日三四名)を迎えて、大会を築き、しかもユニークなものにした。柳沢幹事長以下大会委員はその試金石として、当日の会場では色々とお話をした。曰く、美人有料ホステスの採用、曰く三越協賛の盛り沢山の景品、福引の教々、曰く、等々、枚挙に遑がない程であった。

特に庄巻であったのは、常と違って、演台を会場中央に持ちこみ、その回りを所狭しと踊った「スコの広場」の「ヤンクメン」、「民謡の広場」の「望月小唄」であった。

支部長さん、校長先生を中心に、新卒者他若人達のリズム感溢れる踊りは、自然と先輩も踊るの輪に加わり、文字通り一休の輪に加わり、会場一杯が興奮と感動の渦に巻き込まれた。

大会は終わった。準備期間は長かったが、今日あつたという間に過ぎた。会場の照明が一つ一つ消えてゆき、最後の灯が消されて真暗になった。ふと我にかえった私は溢れる涙を止めようもなかった。一人でも多く集めてやろうと必死に前売券を売って下さった先輩、仕事も放って準備し、又汗だくで司会を勤めた幹事長、副幹事長、

会場の興奮とは別世界で、飲まず食わずで金勘定に忙しい受付係と会計幹事。人の波の先頭で立つて動かれる支部長、副支部長さん

(追記) 今大会の開催に当たりましては、御礼申し上げます。御協力を心より感謝致します。(第十八回大会委員一同)

も進む懇親パーティーとなると、先輩の心の故郷である上田高校同窓会、楽しい雰囲気の中で青春を再現しようとする先輩、伝統と栄光に輝く上田高校の名に恥ぢないよう張り切っている若者、理屈抜きで肩を組み校歌を歌う姿を拝見して、同じ校舎に学んだ人々

「来年も絶対に参加しようね」と、これが同窓会に出席した仲間達の間で、一言一語、

「お、よかったな、盛会だ」暖かく肩を叩いて下さる先輩の方々の声、

「お、よかったな、盛会だ」暖かく肩を叩いて下さる先輩の方々の声、

第18回大会にお招きをうけて

上田高校教諭 齊藤 順三

会場づくしと活気のある声に満ち溢れていた。私達の出席する大会と相俟つて、それなりの効果はあったと思う。さて、史上最高の参加者(当日三四名)を迎えて、大会を築き、しかもユニークなものにした。柳沢幹事長以下大会委員はその試金石として、当日の会場では色々とお話をした。曰く、美人有料ホステスの採用、曰く三越協賛の盛り沢山の景品、福引の教々、曰く、等々、枚挙に遑がない程であった。特に庄巻であったのは、常と違って、演台を会場中央に持ちこみ、その回りを所狭しと踊った「スコの広場」の「ヤンクメン」、「民謡の広場」の「望月小唄」であった。

来年も絶対に参加しようね

(77) 佐藤 和子

「来年も絶対に参加しようね」と、これが同窓会に出席した仲間達の間で、一言一語、

熊川次男君 最高点で当選

衆院・群馬一區

去る十月七日行われた衆議院議員総選挙で、四十八回の熊川次男君が群馬一區で最高点で当選しました。

自覚新たに活動誓う

陸文会OBとの懇談会

九月二十四日、午後三時より上田高校同窓会館にて、高上陸上競技部現役選手とOBの方々と座談会が設けられ、その初の試みに約二時間に渡って有意義な話合いが交わされた。

関東立命会準備会

小諸地区出身者「一平」に集う

学校制度で、もう小諸からの上田通学者はなくなることを知り、一度開くことを考えていたが、なかなかそのチャンスがな

熊川次男君 最高点で当選

衆院・群馬一區

去る十月七日行われた衆議院議員総選挙で、四十八回の熊川次男君が群馬一區で最高点で当選しました。

自覚新たに活動誓う

陸文会OBとの懇談会

九月二十四日、午後三時より上田高校同窓会館にて、高上陸上競技部現役選手とOBの方々と座談会が設けられ、その初の試みに約二時間に渡って有意義な話合いが交わされた。

BASF ジャパン株式会社

東京都中央区日本橋本町4~9 (東山ビル)
TEL 03-270-1461

樹脂・工業薬品本部長 矢島 良衛 (39回)

新生電業株式会社

東京都港区新橋5丁目13番1号(菊栄ビル)
代表取締役社長 土井 正敏

営業工事事部 東京都品川区広町2-1-1
☎03(776)9711~5

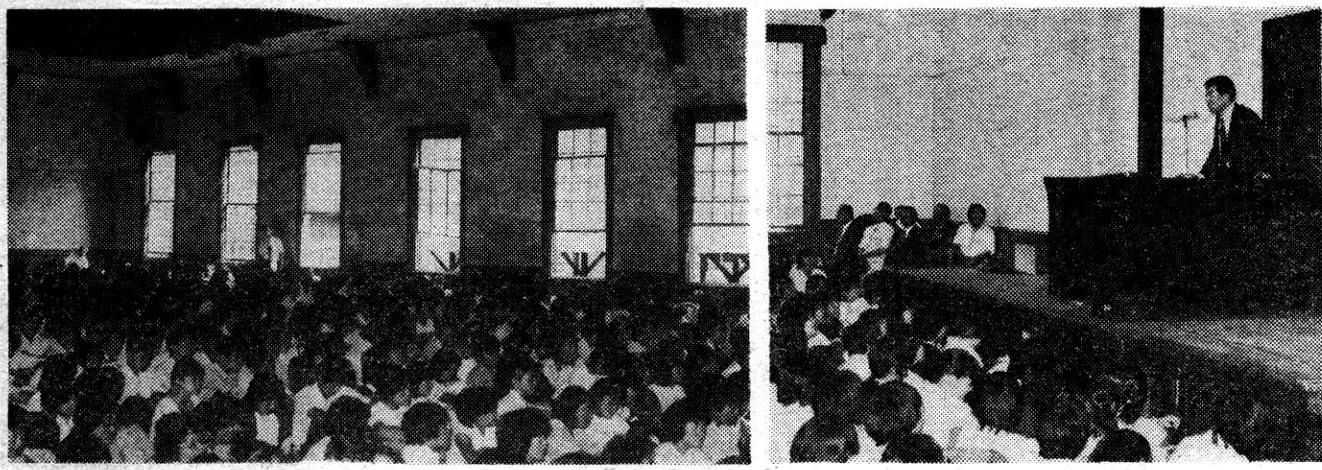
営業種目 電気、電気通信、管、機械器具設備
消防施設、塗装、各工事業

取締役営業工事事部長 橋詰 享 (39回)

母校に講演の記

支部長(31) 矢島 五郎

六月下旬の或る日、母校の新
 津校長先生からお電話をいただいた
 ても愛憎の情をこめて、ついでには
 この大講堂にまつる想い出や、
 卒業生達の社会における御活躍
 ぶりな事柄を……と云々
 上旬には本校の中心部にある創立
 八十周年の歴史をもつ大講堂も取り
 こわしなる……先日、生徒会
 の役員達から自主的に申出があつ
 をと申し出あり、若し後輩に在校生
 のために、是非御承引願いたい！



講堂の内部、体育館としても使用された結果天井は無惨、講師は矢島支部長

……とお電話であった。
 日時七月十一日(水)午後二
 時から約一時間ほど……大略
 以上の如きお話をした。
 何しろ電話の応答である、考え
 てる暇もない。「……分りました
 喜んでお受け致します」とお
 答へした。しかし何んのためらい
 もなく、即座に承諾のお返しが
 来たのは、生徒会諸君からの自主
 的な申出、という校長先生からの
 お言葉に私の感動は強かった。
 生徒諸君からの自発的計画で、
 「大講堂に名残りを惜しむ会」と
 命名し、この案を校長先生に申
 し出したのである。
 想はずい少々の日、入学式に
 際して小倉の袴にカスリ着物
 が、そして卒業後は、ツギハコ
 だらけのセーラーズボンに、これ
 また懐かしい黒毛タンの地味な上着
 の上中タイプで卒業したのが姿を
 瞬時に私は回想した。何を……と
 のようにしゃべろうかなどは見
 当もつていなかった。ただ、現
 在校生の若き後輩諸君が、清純な
 美しい心から、大講堂に名残りを
 惜しむ、その計画を着想してくれ
 たということが胸のせまる感
 激がこみ上げてきた。

……と、この種、母校訪問行
 は私一人のみの向いであつては
 ならない、想い深い大講堂との
 相別でもある、それでは、私も行
 つてみようと思われ、同窓生もあ
 るうかと私は考えた。
 そこで急遽、関東支部各期代表
 幹事各位に書を送り、参加申込み
 は電話でも付記した。そして次の
 諸氏に同行を願うことが出来た。
 (28) 坂井美雄相談役(前関東
 支部長)、(32) 中村礼三編委
 員、(35) 花岡信三支部長、(36)
 石倉謙一編委員、(40) 小林郷
 司副支部長、(54) 馬場武彦編委
 員、(55) 私、それ以上の七名

……暇のく脚の足速み、既に
 出発の日が来た、人並に私も私
 に多忙、講演原稿も当日が来た
 のに寸字の用意もない、母校訪問
 の車中で花岡君から、「先輩草
 は……」と問はれたが「なんどか
 なるさ」と本人は泰然である。し
 かし要諦だけは胸中に企図した
 ……
 七月十一日晴天。午後一時毎
 校着、校門が、柔剣道場が、そし
 て大講堂が昔日に変わらぬ、伝統
 の歴史を改めて御座った。「お
 い、このすべての建物が、九月に
 は全部取りこわされるのだぞうだ
 ……」参加者全員が感慨深げに
 シット見守っている。何かと胸
 が熱くなって来た。そして校舎一
 巡後に、校長先生始め諸先生方の
 心温る歓迎を受けた校長室に憩
 飲談しはじめて時間が過ぎた。
 校長先生の御案内で大講堂に進
 む。私の在学の際は一年生から五
 年生まで一学年四級級制で全級生
 徒教員九百名前後だった。室内も
 四、五名掛けの長椅子で着席した
 ものである。ところが現在では体
 育場にも使用され長椅子一個の姿
 もなく、全級生千名余は床に膝
 折りで満席の由、講堂の外を回っ
 て正面噴水近くの入口から案内さ
 れた。
 入場して先づたまったのは噴水
 の真前から会場の奥は女性生徒であ
 る。
 その昔、女入禁制の頃に思っ
 ていた我が母校に、現実に見えた
 沢山の女性軍には二度ビックリ、
 正直、これほど多勢とは思はな
 かった。噴水と最前列の女性生徒との
 間のセイメイ通路を体ナメにやっ
 と進む、満席の拍手に迎えられる
 心拍が、歩みつつ、つい手がのび
 て最前列の二、三名の女性生徒の頭
 をなでる。
 思わぬこんな草草が満席の爆笑
 をまよ、ぐと先輩後輩の親しみ
 が交流した。
 生徒会長、徳田修二君の初々し
 い開会の辞、講師の私の短支紹介
 紙片が既に、徳田君に配布済みで
 あった。なんとも汗顔の至りで
 あった。新津校長先生の御挨拶、



講堂の撤去跡、手前の土蔵は既に移動済み

……と云々からして、決して私
 はロマンチストでもなく、しつこ
 男性でもねえ、と思はず打った
 る……と言葉が口走った。拍手と
 笑いで静か緊張がほぐれる。
 先輩後輩の交流に強ひらるこ
 を覚えた。最近の話し、とお話し
 て、つい先月の六月二十八日に開
 催された第十八回関東支部大会
 に、今春卒業したばかりの君たち
 の一年の先輩が三十名も出席し
 てくれた。
 若き同窓生を歓迎して、切々
 努力を企図してくれた(40) 小林大
 会委員長長外諸君の尽力で、実
 に愉快な大会となった。明
 治生れの先輩から、昭和五十四
 年三月卒業の第七十期生まで、
 現と縁を交流もあつた。同
 窓生の絆が会場のそこかしこに
 笑みの渦となつて流れた。スパン
 イ合大会に感激した。そして、パ
 ーティのフレイマックス、Y.M.C.
 Aのダンス大会と相成った。
 中央壇上……と私は語りか
 けて、にこやかにほほえみでお
 話せられた。私は、私がお話し
 た……「せむせむ何んか、先
 生のお話に安心して生徒諸君に
 再び目を移した。そのダンスの最
 ももたつたのは私と一緒に踊ら
 れた新津校長先生、この先生だ
 った……」
 まさに会合生徒諸君の万来の拍
 手と大爆笑、会場後方に坐してい
 た男子生徒は仰り上つて校長先生
 のお顔をまよとする。女生徒諸

……と云々からして、決して私
 はロマンチストでもなく、しつこ
 男性でもねえ、と思はず打った
 る……と言葉が口走った。拍手と
 笑いで静か緊張がほぐれる。
 先輩後輩の交流に強ひらるこ
 を覚えた。最近の話し、とお話し
 て、つい先月の六月二十八日に開
 催された第十八回関東支部大会
 に、今春卒業したばかりの君たち
 の一年の先輩が三十名も出席し
 てくれた。
 若き同窓生を歓迎して、切々
 努力を企図してくれた(40) 小林大
 会委員長長外諸君の尽力で、実
 に愉快な大会となった。明
 治生れの先輩から、昭和五十四
 年三月卒業の第七十期生まで、
 現と縁を交流もあつた。同
 窓生の絆が会場のそこかしこに
 笑みの渦となつて流れた。スパン
 イ合大会に感激した。そして、パ
 ーティのフレイマックス、Y.M.C.
 Aのダンス大会と相成った。
 中央壇上……と私は語りか
 けて、にこやかにほほえみでお
 話せられた。私は、私がお話し
 た……「せむせむ何んか、先
 生のお話に安心して生徒諸君に
 再び目を移した。そのダンスの最
 ももたつたのは私と一緒に踊ら
 れた新津校長先生、この先生だ
 った……」
 まさに会合生徒諸君の万来の拍
 手と大爆笑、会場後方に坐してい
 た男子生徒は仰り上つて校長先生
 のお顔をまよとする。女生徒諸

……と云々からして、決して私
 はロマンチストでもなく、しつこ
 男性でもねえ、と思はず打った
 る……と言葉が口走った。拍手と
 笑いで静か緊張がほぐれる。
 先輩後輩の交流に強ひらるこ
 を覚えた。最近の話し、とお話し
 て、つい先月の六月二十八日に開
 催された第十八回関東支部大会
 に、今春卒業したばかりの君たち
 の一年の先輩が三十名も出席し
 てくれた。
 若き同窓生を歓迎して、切々
 努力を企図してくれた(40) 小林大
 会委員長長外諸君の尽力で、実
 に愉快な大会となった。明
 治生れの先輩から、昭和五十四
 年三月卒業の第七十期生まで、
 現と縁を交流もあつた。同
 窓生の絆が会場のそこかしこに
 笑みの渦となつて流れた。スパン
 イ合大会に感激した。そして、パ
 ーティのフレイマックス、Y.M.C.
 Aのダンス大会と相成った。
 中央壇上……と私は語りか
 けて、にこやかにほほえみでお
 話せられた。私は、私がお話し
 た……「せむせむ何んか、先
 生のお話に安心して生徒諸君に
 再び目を移した。そのダンスの最
 ももたつたのは私と一緒に踊ら
 れた新津校長先生、この先生だ
 った……」
 まさに会合生徒諸君の万来の拍
 手と大爆笑、会場後方に坐してい
 た男子生徒は仰り上つて校長先生
 のお顔をまよとする。女生徒諸

九月二十三日、新津校長先生より閉会式当日の御感想等をお寄せいただいた感謝の書簡を拝受致すの次第。記の結びとする。

「閉会式」を終って

生徒会長 徳田 修二
 去る七月十一日、生徒会主催で「閉会式」を行いました。そして数週間後の暑い日射しの照りつける中で、OB諸氏にとっては懐かしいの、また我々にとっては今までの学舎として使用してきた講堂が、もうもうと砂塵をあげて取り壊されました。僕自身、本日に良い先輩にお話を願って、よかったと思っております。今回の「閉会式」に際しては、在校生等も何らかの思い出を持ってくれたものと思えます。あの伝統の刻み込まれた講堂は、もろく深くするために、我々上田高生徒会執行部として、今回の「閉会式」を企画しました。進行としては、まず、校長先生および会長の挨拶。次に、生徒会が講師としてお話しした、上田高等学校同窓会関東支部長である(31) 矢島五郎氏に講演をしていただきました。

会報「うえだ」の 広告について

広告部長 (36) 伊藤東四次郎
 会報「うえだ」の広告につきま
 して、第二号で広告部長名で、
 「広告部からお願い」と題して
 受けて頂くようお願い申し上げ
 ましたところ、続々と名刺をお
 りの広告が出てきました。既刊を
 めて左記の通りです。
 一〇号 三年後期
 二〇号 四年前期
 三〇号 四年後期
 四〇号 五年前期
 五〇号 五年後期
 六〇号 六年前期
 七〇号 六年後期
 八〇号 五六年後期
 九〇号 五七年後期
 一〇〇号 五八年後期
 以上各期の諸氏、同期の友誼
 と連帯のあかしとして、二七号よ
 りの広告をすすんでお引受け下
 さるようお願い致します。
 一〇号から一〇〇号の広告を二〇
 千円以上お引受け頂くわけです
 から、個人以上お引受けの方々の御協
 力を頂かなくてはなりませんの
 で、会報をお取りしておくと
 ころ、決まりました。二七号
 しいと思えます。何卒御力添えの
 程を。

豊富な内容
 楽しさいっぱい
 価値あるお泊り

信州 / 戸倉上山田温泉

●政府登録国際観光旅館

NOTEL riverside 上田館

長野県埴科郡戸倉町3055 / 〒389-08 / TEX : 3322-189
 ☎ 戸倉上山田 (02627) 5-1881 (代) / 予約専用 : ☎ 6-1881

健康と長寿のコンサルタント
 正確迅速安価な健診システム

3 時間 人間 ドック

Sun Toranomon Clinic
サリ虎の門クリニック

〒170 豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60・7F
 電話 (03) 988-3421

企画室 久保田 勇 (39回)



別所温泉花屋ホテルで開かれた川西同志会

若し時代の進出を、先輩後輩... 川西同志会の思い出



三、四の方を除いては... 川西同志会の思い出



丸山会長の講話を聞く松尾税友会

松尾税友会ひらく... 第九回の松尾税友会が、九月

三三会、別所温泉に集う... 三三会、別所温泉に集う

第40期の同級会... 盛大に開催

中学出てから40年

38会上田呈蓮寺で慰霊祭

記念事業に学校位置表示碑寄付



昭和十四年三月、誇りと志を... 慰霊祭

同期会の集い



梅雨の晴れ間をもち、昭六... 同期会の集い

盛んに獅子会開く



古くは獅子舞は、お祭りの... 盛んに獅子会開く

銘茶、海苔、茶の湯道具、卸、小売

茶和園

株式会社 大西 猛 (39回)

〒384 小諸市駅前通り
TEL 02672-2-0131、3105

ふるさとの酒

金蝶

うまい 酒だなあ 味がする

協和酒造株式会社
長野県北佐久郡朝日町7377 〒384-22 TEL 026753-2288 (代表)

シューズ・センター

はぎわら

39回青々会 青々2日会幹事

萩原 秀治 (39回)

上田紬 織元

有限会社いさか 猪坂哲郎 (39回)

本社 上田市中央6-4-26 TEL 0268-22-0086
上田工場 上田市中央6-4-52 TEL 0268-22-2413
伊勢崎工場 伊勢崎市宮前町1044 TEL 0270-25-0200

十全医院

内科小児科 耳鼻咽喉科

東京都医師会理事 府中市医師会長 小木 曾 學 (39回)

〒183 府中市清水が丘1-4-9
TEL (0423) 61-2558

医療法人 嘉美会横関医院

横関 嘉伸 (39回)

八王子市旭町13-7
TEL 0426-42-5454

郷土の味を贈りましょう

山吹味噌

信州味噌株式会社

本社 東京都新宿区下谷合3-17-38
代表取締役 小山 正 邦 (39回)

シルク、電子、そして未来へ

シナケンシ株式会社

長野県小県郡丸子町上丸子1078
〒386-04 電話 丸子 (02684) 2-2818(代)

上田工場 上田市中央6-15-26 電話 上田 (0268) 22-3520
第2工場 上田市中央東2-1 電話 上田 (0268) 23-2558
長門工場 小県郡長門町四道3-1 電話 長門 (02686) 8-2178
真田工場 小県郡真田町勝岡938 電話 真田 (02687) 3-2631

取締役社長 金子 八 郎 (39回)
常務取締役 小 泉 正 衛 (36回)

上田・思い出の歳時記

遺稿絶筆 (26) 酒井論一



生まれ、幼年期少年期を過ごし、上田は、年を経るとともになつかしさが深まってきた。

今、週刊朝日に連載されている池波正太郎の歴史小説「真田太平記」を愛読しているが、幸村の生い立ち、上田盆地の描写に心が惹かれている。宿命とは言えぬが上田であることが幸いであると思う。

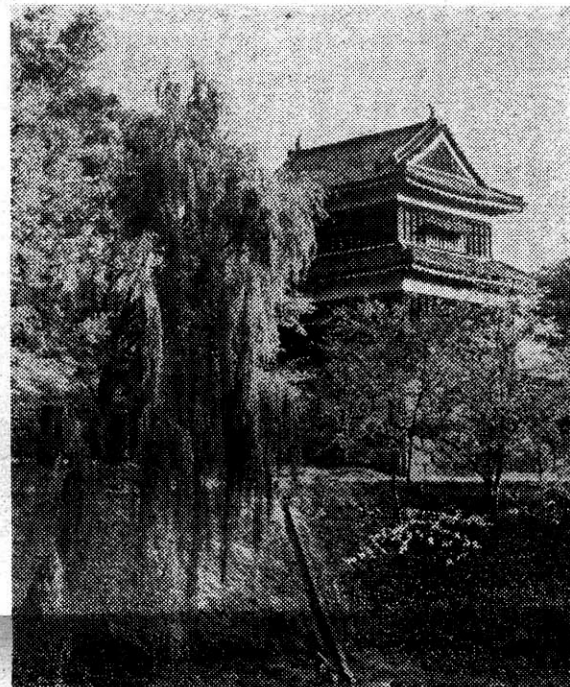
父は長野市近郊、母は松本市の生れであるが、二人は上田で結婚し私を生み上田で生活したのである。歳時記風に上田の思い出を書き綴って見た。

新しい年開く

東方にそびゆる烏帽子岳に上る初日の出を父と母と感動が今も鮮かに蘇ってくる。母の新しい調子で洗った着物を着て、井戸の若水を顔に洗い、お雑煮を祝って新しい年が始まった。

冬の子の遊びはスケートであった。雪は少ないが寒気の強いこの地方では、池の水が凍った。いわゆる下駄スケートを足に真田ヒモでくくりつけ常田池に滑りに行った。様式、夜更けて凍る音寒の入り待ちわびた春が訪れる。梅、桃、桜、やがて舌が咲き競う。上田城址の花見、だんごや木の芽田楽など、幼き日の思い出はつきない。古い写真帳に上田公園での小学校の卒業記念写真が大切に貼られていた。

若葉青葉の美しい季節がやって来る。遠足でいく度太郎山に登ったことだろう。春のわらわら狩り、秋のキノコ狩り、冬のウサギ狩りなど、私の生涯で一番多く登った山であるだろう。先



上田城の思い出をたのしみ 上田・青島信平氏 (37) 撮影

夏は千曲川原
夏になるとかの権現坂を下って瓦葺タンクの脇を通って千曲川原に水泳に行った。予め小川で年長者から泳ぎの訓練を受けながら千曲の本流に泳ぎに行き、流が激しいので危険であ

ったが、泳ぎよりむしろ流れるという泳ぎ方であった。後年海水プールで泳ぐようになつて静水での本格的泳ぎ方を知った。川原では餌を竹の管で吹いて水面に撒き、集まる魚を釣針にひっかけて後方に投げあげる釣人を見ながら泳ぎから帰るのであった。暑さにあえきながら権現坂を登って、当時小泉養蚕学校の車庫から汲み上げた冷水を釣瓶から口飲みした甘露味は、どんな飲み物より美味しいと思つた。

お盆を中心海野町辺りに夜市が催された。アセレンの灯のにおいが漂う中を、その歩いた。大やんを背負って休憩終りけまで往復のコースで行われた。

マラソンの秋
九月の新学期が始まり高原の秋の気配を感じるようになった。澄んだ空に秋蜻蛉が飛び交い、紅葉が美しく田園の山を染めるようになる。秋は運動会の季節である。学校の秋季大運動会がそこで開かれる。山に囲まれた上田盆地には花火の爆音が快くこだまて運動会への勝利とする。マラソンというものはやはりはじめたころで、小学校の運動会でもマラソンを行うこととなり、近所の友達とこの日が近づくと毎晩練習をして本番に備えた。

こたつの年取り
足はやに冬が訪れて、遠い山々に雪が見られるようになる。大晦日の夜、家族そろってお年取りの騒ぎを食べてコタツで初音売りの音の音が聞えてくる。やがて除夜の鐘が一年の終りを告げる。

ふるさとの無性に恋し雪降る
この第八回大会が縁となり、二か月毎に開催される各代表幹事会の会場で編み引続き十年間の今日に及び、大会も本年の第十八回まで変更することになった。会場と定まり、他校校友校の同窓会からも来やまれている。しかしそれはただ会場が良しとのみではない。会場や大会開催地は酒井先輩が自ら心温く種々御氣使ひ下さり、誠心お世話を下さった。その御厚情の賜物と云えよう。今日、我が同窓生は幹事会や大会にも、勝手知ったる会場として安心して使用させてもらっている。酒井先輩の御厚情があったればこそ訴えたい。先輩との交流があった。御自身の第二十六期生の糾合にも努力され、関東支部の幹事にもなつていた。御活躍、監事の

大役にも就任。昨年は総会においで相談役に推せんもされた。昭和五十二年会館を退職された。昭和五十二年会館を退職された。昭和五十二年会館を退職された。

昭和五十四年十月十日
● 宮坂三吉氏より報告
● 市原 政治
昭和五十四年六月十日
● 中村礼三氏より報告
● 柳沢 信重
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
● 清水 頼春
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告
● 横間 源延
昭和五十二年十一月十九日
● 御遺族より文書報告
● 羽田 好雄
昭和五十四年八月二十日
● 高橋祐市氏より報告
● 山田 政彦
昭和五十二年十一月三十日
● 御遺族より文書報告

昭和五十四年十月十日
● 宮坂三吉氏より報告
昭和五十四年六月十日
● 中村礼三氏より報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年十月十日
● 宮坂三吉氏より報告
昭和五十四年六月十日
● 中村礼三氏より報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年十月十日
● 宮坂三吉氏より報告
昭和五十四年六月十日
● 中村礼三氏より報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年十月十日
● 宮坂三吉氏より報告
昭和五十四年六月十日
● 中村礼三氏より報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年十月十日
● 宮坂三吉氏より報告
昭和五十四年六月十日
● 中村礼三氏より報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年十月十日
● 宮坂三吉氏より報告
昭和五十四年六月十日
● 中村礼三氏より報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

酒井論一君を悼む

(26) 滝沢 伝

酒井論一君(26期)が四月二十五日急逝した。死因は心筋梗塞と推定されている。五日前に七十才になったばかりだった。

平健康で病一つしなかったが、十年前に心臓の発作があった。その時は簡単に済んで本人も家族もほとんど忘れ去っていたが、結局その病が命の元凶になった。26期は今年七十才になるものが大勢だが、ボツボツ同期生の計が出てきたので、酒井君の死はショックだった。

同君は旧制静岡高校、東北北大

酒井論一君(26期)が四月二十五日急逝した。死因は心筋梗塞と推定されている。五日前に七十才になったばかりだった。

故酒井先輩の御霊に捧げまつる

支部長 31 矢島 五郎

故酒井論一先輩の御霊がわれに託された。御霊がわれに託された。御霊がわれに託された。

おくやみ

同窓諸氏のみたま安かれと祈りつつ

昭和五十四年五月二十一日
● 馬田相談役より電話報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年五月二十一日
● 馬田相談役より電話報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年五月二十一日
● 馬田相談役より電話報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年五月二十一日
● 馬田相談役より電話報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

昭和五十四年五月二十一日
● 馬田相談役より電話報告
昭和五十四年三月二十四日
● 弘世敬信氏より報告
昭和五十四年五月十七日
● 弘世敬信氏より報告

日本割引短資株式会社

東京都中央区日本橋本石町3-6-8

取締役 田村 健二郎 (39回)

03-242-7531

菊地内科

神奈川県大和市林間1-3-3

菊地 博 (39回)

0462-74-3151代

